

登壇者プロフィール

齋藤 学（さいとう まなぶ）

下甕手打診療所 所長、ゲネプロ代表

2000年に順天堂大学医学部卒業。地元の国保旭中央病院で研修後、浦添総合病院（沖縄県）で救急医として研鑽を積む。フライトドクターとして離島に出向くたび、離島医療の過酷さを実感する。同病院で救命救急センター長を務めた後、診療の幅を広げるため、離島医療や在宅医療、内視鏡を含めたがん診療を学ぶ。離島やへき地で闘える医師を育てるためのトレーニングを探して、世界の離島・へき地医療の現場を巡り、2014年に離島・へき地医療や総合診療医の教育プログラムを提供する会社「ゲネプロ」を設立、代表に就任。2017年にはオーストラリアへき地医療学会と提携を結んだ「Rural Generalist Program Japan」を始動。2020年より現職



写真提供：
東洋経済 education×ICT

西津 錬（にしづ れん）

下甕手打診療所 副所長。ゲネプロ4期生

2013年筑波大学医学群医学類卒業。初期研修後、東京、静岡で外科医として研鑽を積む。2019年8月よりJAPAN HEARTに参加し、カンボジア、ミャンマーで医療活動を行う。へき地でも通用する医師を目指す中でゲネプロのプログラムと出会い、2020年4月参加。高知県 大井田病院、長崎県 上五島病院整形外科を経て、2022年4月より現職。



木庭 太郎（こば たろう）

呼吸器内科専門医、結核・抗酸菌症指導医。ゲネプロ6期生

益田地域医療センター医師会病院勤務。医学生時代に国際保健サークルで地域医療や国際保健を学び、世界を放浪。2009年鳥取大学医学部卒業後は地元に戻り、大阪警察病院・近畿中央胸部疾患センター・大阪大学医学部附属病院等で呼吸器内科診療に従事。2021年3月大阪大学大学院卒業。大学院在学中に本当に自分のやりたいことを見つめなおし、初心に戻って僻地での活躍を決意。2021年6月長崎大学 Professional diploma of tropical medicine and hygiene (DTM&H)修了。2022年4月よりゲネプロ参加、現職。



高橋 健介 (たかはし・けんすけ)

国境なき医師団 (MSF) 内科医・疫学専門家

専門は一般内科・呼吸器・感染症と臨床疫学。2006年弘前大学医学部卒業。卒業後八戸市民病院で初期研修・後期研修を行い、2009年より長崎大学熱帯医学研究所に所属。離島勤務や一般病院勤務、大学病院での呼吸器・感染症・救急診療、ベトナムでの臨床研究などにも従事し、現在は長崎市内の救命救急センターで救急診療を行っている。2014年よりMSFの医療援助活動に参加。これまでにエチオピア(2014~2015年)、リベリア(2015年)で活動。2021年よりMSF日本理事を務める。



森岡 慎也 (もりおか しんや)

国境なき医師団 (MSF) 救急医

救急科および内科の専門医、薬剤師資格を持つ。2002年愛知県立旭丘高校卒業、2007年名古屋市立大学薬学部卒業、2013年富山大学医学部卒業。2014年より沖縄県立中部病院で初期・後期研修。その後、沖縄県立八重山病院救急部などで勤務。この間に救急専門医(日本)および米国ECFMGを取得。石垣島等の離島での診療を通して、医療過疎地における医療のあり方について学ぶ。2020年にMSFに登録。2021年8月~2022年3月に、ミャンマーラカイン州及びカチン州において医療活動マネージャーとして活動。



© MSF